

インタビュー

高度医療と良質のホスピタリティで地域医療に貢献 全棟を耐震基準に合わせて改築し災害時の医療確保

神戸 成美 医療法人ヘブロン会大宮中央総合病院理事長・院長



かんべ なりよし
神戸 成美 氏

- 1949年 東京都出身
- 74年 日本医科大学卒業
- 75年 日本医科大学医員助手（麻酔科、救命救急センター）
- 79年 同大学院修了
- 81年 同大学内科第三勤務
- 86年 大宮中央総合病院勤務
- 94年 同病院院長
- 95年 同病院理事長就任
- 2002年 日本医科大学内科第三客員教授

さいたま市北区にある大宮中央総合病院は、15の診療科目と266病床を持つ地域の中核病院である。

創立は1954年、結核患者治療のための医院として開院する。翌年、医療法人ヘブロン会大宮中央病院として医療法人認可を得て、内科、小児科、外科、産婦人科などの診療を始め、一般病棟を開設。その後も「どんな患者さまも受け入れる」を基本に、地域のニーズに合わせて診療科目と病床数を増やしてきた。2004年、創立50周年記念事業として患者さまとスタッフの安全を最優先に大規模な改築、

新棟建設工事に着手。2010年、全ての整備が終了し緊急災害時でも十分な医療活動が果たせる耐震性の備わる病院に生まれ変わった。

「これでハード面の体制が整いました。これからはソフト面の一層の充実を図り、使命感をもって地域の方々により高度な医療と良質なホスピタリティを提供していきたい」と神戸理事長は語る。

**結核患者や生活困窮者を救うために開院
「どんな患者さまでも受け入れる」が基本**

——早速ですが、大宮（現さいたま市北区）で病院を開かれた経緯について伺います。

創立者は、父の神戸登でキリスト教の信奉者でありました。結核で苦しむ人々を救いたいと病院に転用できる物件を探していたところ、大宮に軍需用パラシュートを製造していた紡績工場が見つかりました。地域には結核患者や生活困窮者も多かったことから、その工場を改装して開院することを決めました。医院からのスタートでしたが、翌年には結核病棟40床を立ち上げるとともに一般病棟も開設しました。診療科目は内科、小児科、外科、整形外科、産婦人科、放射線科。これが、医療法人ヘブロン会大宮中央病院の始まりです。その後、1976年に大宮中央総合病院として認可されました。

法人名のヘブロンとは、聖書の中に記録されている世界最古の町のひとつヘブロンに由来します。旧約聖書によると、その都市は人を大切にする寛容で慰めに満ち溢れた町で、病める人たちが心身ともに癒され健康を取り戻して社会復帰をしたということが記されています。そのようなヘブロンの精神に基づき、



創立当時の診療所（1954年頃）



患者さまやスタッフの安全を最優先に耐震性が強化され、緊急災害時にも地域における医療活動の場が確保された現在の病院全景

「どんな患者さまでも受け入れる」を基本に地道に地域の患者さま方に、より一層高度な医療と良質なホスピタリティを提供し続けて半世紀以上、40床からスタートした病院は266床を持つ、さいたま市北区の中核病院となり2次救急病院に指定されており、24時間365日、救急医療対応しています。

地域で初の救急車を自前で配備 最新鋭の医療機器を積極的に導入

——「どんな患者さまでも受け入れる」の具体的なエピソードはありますか。

1960年代から救急医療を始めました。この年代では県内初の自前で救急車を配備し、来院困難な患者さまの無料送迎や警察、消防に代わり出動することもありました。

診療に関しては予約制の病院が多いと思いますが、当院ではいくつかの診療科目を除いて基本的に予約制をとっていません。これもまた、どんな患者さまでも受け入れるという考え方からです。外来患者数が一日に平均800

名以上と多いのも、こうした考え方が長い時間をかけて地域に浸透しているからだと思います。

初といえば、1968年のX線フィルム自動現像機の導入も県内初でした。そういった歴史もあり、MRIやCT、エコー、内視鏡関係など総合病院に必要な医療機器の更新には積極的に取り組んでいます。現在は、放射線科のX線撮影装置マンモグラフィーをより高度で機能的なものに更新しようと検討中です。



昭和40年代県内初の救急車を所有。患者さまの送り迎えや警察・消防に代わり出動した

創立50周年事業で全棟を耐震化 電子カルテなどソフト面も充実

——大規模な改築工事を行ったそうですが、改築の目的についてお聞かせください。

2004年に創立の地で50周年を迎えました。その記念事業として、1994年に建てた南棟を除いた老朽化した建物の全面改築と新棟建設を行いました。目的は、患者さまとスタッフの安全を最優先に、緊急災害時における地域での医療活動の確保のため病院すべての建物を現行の耐震基準に合わせたものに強化することでした。

——入院や外来患者さまがいる中で、どのようにして全面改築を行ったのですか。

工事中でも診療を続けられるように、200メートルほど離れたところにある家具店だった建物を外来専門に改装し、大宮中央クリニックを立ち上げるところから始めました。そして、南棟の外来機能をクリニックに移し、病棟を南棟に仮設して東棟、北棟と順次改築していきました。

すべての工事が終了し、2010年5月に外来がクリニックから元の場所、病院の南棟に戻ってハード面の整備がすべて完了しました。改築に当たっては、私自身が日ごろ病院内を回り、こうしたら患者さまにとってよいのではないかと感じる点を設計士さんに提案、各所にそのアイデアをいかさせていただきました。工期がかかり患者さまやご近所の方にはご迷惑をおかけしましたが、すっかりリニューアルされより快適で良質な医療の提供が可能になったと思います。

また、2010年8月には、最上階の5階フロアに30床の人工透析センターをオープンしました。自然のやわらかな光があふれる設計で透析の時間をなるべくリラックスしていただ

けるように工夫しています。今後、透析日や透析時間の設定など患者さまのニーズに応じた体制を整えていきたいと考えています。

——ハード面が整い、次はどのような展開を考えていますか。

5月に外来がクリニックから病院に戻ったのを機に紙カルテを全廃し電子カルテシステムを導入し、診断画像や検査データなどが迅速に処理できるようになりました。また、当院では患者さまの利便性と患者さまへの責任という観点から薬を院内処方していますが、電子カルテシステムを導入したことによってデータがすぐに流れるために薬の待ち時間が短縮されて、患者さまから早く帰宅できるようになったと好評をいただいています。

もちろん、ソフト面の充実は当病院の理念使命である「高度な医療技術と良質なホスピタリティの提供」にあるように、優しい心遣いや職員の意識の向上などが重要で、医師、



大宮中央クリニック
(健診医療センター・歯科口腔外科)



理事長のアイデアで癒しの空間となっている最新鋭のMRI室

技師、看護スタッフなど約400名の職員のトータルなエネルギーを結集させて信頼と安心を提供できる医療水準、そして心の通った院内の雰囲気大切にしていきたいと思えます。

また、近隣医療機関との一層の連携強化を進めることも課題であり、優秀な看護師確保なども欠かせません。寮や保育所は開設当時からあり、福利厚生の中でも重点を置いて整備を進めています。看護師が安心して勤務できるように病院近くに保育所を設け、ゼロ歳児から小学校入学までの約50名のお子さんを預かっています。また、2010年からは准看護師学校の実習の引き受けも始めました。

——患者さまのニーズの変化については、どのように感じられていますか。

患者さまの意識はできるだけ専門的な医師に診察してもらいたいというように変化してきています。当病院では平成になってから精神科、脳神経外科、最近では腎臓内科を開設

し、診療科目を充実させています。

病院としてはできるだけ診たいという思いはあるのですが、患者さまからすると特定の先生に診てもらいたいということもあって時間帯によっては対応が難しいという問題もあります。その辺の折り合いが医療経営の難しさです。古く歴史のある病院というだけではなく、次々と新しい局面に対応していかなければならないのです。

しかし、基本は地域に根ざして患者さまを選ばず積極的に受け入れ、最後まで誠心誠意フォローする。電子カルテであってもパソコンに向き合うばかりでなく、スタッフは患者さまとしっかり向き合うことが大切であると思います。

勤めがあって休日も診察してほしいという患者さまのニーズにお応えして、内科と精神科は土曜日の午後も診療を行っています。内科系、外科系は365日、24時間対応できるように専門医の配置も行っています。



2010年8月最上階の5階フロアにオープンした透析センター

職員には日々の自己研鑽を期待 趣味はパソコンや機械いじり

—職員に期待することはありますか。

「質の高い医療の提供、安全性の追求、高度医療への対応、患者さまとご家族の満足の上昇、患者さまにとって最善の医療の提供、癒しとやすらぎのある病院づくり、地域医療への貢献、地域に開かれた病院づくり、医療連携への推進、良質な医療を担う人材の育成」が当病院の基本方針です。この方針に従って、職員には質を落とすことなく地域の方々がたくさん来院していただけるように自己研鑽し、より良い仕事を目指して毎日努力をしていただきたいと思います。

—最後の質問ですが、ご趣味はなんですか。

スキーとドライブ、それから機械いじりです。学生時代からパソコンや機械などに興味があり、医療機器の更新では関心を持っていろいろと比較検討し、研究しています。

—地域にハード、ソフト両面が整った病院

があるのは、住人にとって非常に心強いことだと思います。今後も地域医療への貢献を期待しています。

本日はありがとうございました。

医療法人へブロン会大宮中央総合病院概要

創 立	1954年
医療法人認可	1955年
病 床 数	266床
人工透析ステーション	30床
診 療 科 目	内科・小児科・外科・精神科・整形外科・脳神経外科・皮膚科・泌尿器科・女性診療科・眼科・耳鼻咽喉科・リハビリテーション科・放射線科・腎臓内科・歯科口腔外科・人間ドック、脳ドック
健診医療センター(企業健診、一般健診、人間ドック)	
指定居宅介護支援事業所 訪問看護ステーションわかばを併設	
職 員 数	400名(パートも含む)
所 在 地	〒331-8711 さいたま市北区東大成町1-227
電 話	048-663-2501
ホームページ	http://ocgh.jp/
取 引 店	本店営業部